

「哲学少女～Psychologist of the rose garden」

ハートの花卉で占う
ただの慰めなんてイヤよ
好き嫌い本能のままに
生きたいから邪魔をしないで

お人形のように可愛く
無機質な瞳を飾って
私だけの哲学学ぶ
忘れられた地獄の底で

無情ノ針先ガナゾル
嘘ドラケノ孤独ナ径
妄想ダケ狂レテ弾ケ
ソシテ誰モイナクナツタ

ふさぐ目蓋に映る闇へ
身を委ねて染まりましょう
まだ知らないのなら教えてあげる
厭われ者が生きる世界を
閉じた二つ折りの心に滲みゆく涙の跡
その非対称の模様から見える
色褪せ寂れた薔薇園を

黒い瞳の枷断ち切って
無意識の海に浸かる
私の名を呼ぶ優しい天へと
手を伸ばしたけど届かなくて
見たことない世界の扉
あなたなら開けますか
向こう側につれて行ってほしいの
ここで溺れてしまう前に

温かな子宮でもがいて
羊水を肺に満たし夢みる
細胞が受け継ぐ記憶を
光求め波打つ鼓動

生命のバグ正す粒子と
音を立てず変わる配列
残酷な悪夢の先には
新しい歴史が続くの？

二重螺旋ノ階段ヲ
踏ミ外シテ真ツ逆サマ
躰中ガ蕩ケ解ケ
コレハキット未知ノ病

恋は盲目であるほどに甘美な毒に冒され
胸に刺さる棘ごと燃やし尽くす
嫉妬深き火炎愛好となり
時には痛みだけが伝う過去も感情もすべて
燻った灰に埋め亡き骸を
踏みにする埋葬愛好となる

浮かびあがることもできずに
無意識の海ただよう私に
差し伸べてくれたその手の
ぬくもりが濡れた頬に沁みて
見たことない世界への鍵
あなたが握っているの
どこまでもつれて行ってほしいから
まだまだお願い傍にいて